

平成31年3月31日

薩摩川内市議会

議長 福田 俊一郎 様  
(会派代表者経由)

会派の名称 自民むつみ会  
経理責任者氏名 川添 公貴



政務活動費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり、平成30年度政務活動費に係る収支報告書を提出します。

- 1 収入  
政務活動費 1,425,000 円
- 2 支出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	1,297,926	7/30～8/1宮城県、1/28～30岡山県 3/27～28熊本県・福岡県
研 修 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
広 報 費	50,000	自民むつみ会会報
広 聴 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
人 件 費		
事 務 費	28,107	コピー用紙、ボールペン、蛍光ペンほか
合 計	1,376,033	

- 3 残余の額  
48,967 円

- 注1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。  
2 領収書、活動報告書その他必要な書類を添付すること。  
3 会派に属さない議員の場合は、「会派代表者経由」の必要はないこと。  
4 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。  
5 会派に属さない議員の場合は、「経理責任者氏名」とあるのは「議員の氏名」と読み替えること。

平成31年3月31日

薩摩川内市議会

議長 福田 俊一郎 様

会派の名称 自民むつみ会

代表者名 瀬尾 和敬



## 活動報告書

### 1 調査研究事業

#### 【1回目】

(1) 視察年月日

平成30年7月30日（月）～8月1日（水） 3日間

(2) 視察参加者

徳永 武次、福元 光一、川畑 善照、森永 靖子、瀬尾 和敬、宮里 兼実、  
川添 公貴（7名）

(3) 視察先及び視察事項

宮城県気仙沼市

- ・災害の復興状況について
- ・気仙沼市への本市派遣職員との面談

宮城県大崎市

- ・大崎市図書館の運営・事業等について（施設調査を含む）

鳴子まちづくり株式会社

- ・鳴子温泉熱を利用したまちづくりについて

(4) 調査の概要

別紙のとおり

#### 【2回目】

(1) 視察年月日

平成31年1月28日（月）～30日（水） 3日間

(2) 視察参加者

瀬尾 和敬、福田 俊一郎、川畑 善照、宮里 兼実、川添 公貴、福元 光一、  
徳永 武次（7名）

- (3) 視察先及び視察事項  
岡山県玉野市  
・たまの版生涯活躍のまち基本計画について  
岡山県新見市  
・ICT教育の推進について
- (4) 調査の概要  
別紙のとおり

### 【3回目】

- (1) 視察年月日  
平成31年3月27日（水）～28日（木） 2日間
- (2) 視察参加者  
瀬尾 和敬、川畑 善照、宮里、兼実、川添 公貴、福元 光一、徳永 武次（6名）
- (3) 視察先及び視察事項  
日立造船株式会社 有明工場  
・使用済核燃料の乾式貯蔵・輸送に係るキャスクについて  
九州電力株式会社 豊前蓄電池変電所  
・太陽光を活用した大容量蓄電システム実証施設について
- (4) 調査の概要  
別紙のとおり

## 2 研修事業

## 3 広報事業

自民むつみ会会報 平成31年3月発行  
5,000部作成

## 4 広聴事業

## 5 要請・陳情活動事業

## 6 その他活動

## 視察報告書

平成30年8月6日

薩摩川内市議会

議長 新原 春二 殿

自民むつみ会

代表 徳永 武次



視察年月日 : 平成30年7月30日(月)～8月1日(水)  
視察参加者 : 徳永武次 福元光一 川畑善照 森永靖子 瀬尾和敬 宮里兼実 川添公貴  
視 察 地 : 宮城県気仙沼市  
宮城県大崎市  
宮城県大崎市・鳴子まちづくり株式会社

視 察 事 項 : ① 災害の復興状況について  
② 気仙沼市への本派遣職員との面談  
③ 大崎市図書館の運営・事業等について(施設調査を含む)  
④ 鳴子温泉熱を利用したまちづくりについて

視察の概要は以下のとおりでした。

### 記

#### ★ 視察事項

##### 1 災害の復興状況について

##### ■ 冒頭あいさつ

菅原 議長 赤川 副市長

菅原議長

気仙沼に宿泊していただき感謝申し上げたい。気仙沼の産業振興に向けて、議会としても努力している。津波について、引き潮の後、何も残っていないことが大きな損害・災害であった。

それらを踏まえ、復旧に向けて各種政策を議会としても取り組んでいる。

赤川副市長

東日本大震災から7年たっている。住居の完成や産業の振興が進んでいるが、従事する人口が少ないことから、地場産業の販路の開拓を進めている。復旧・復興事業にプロパーなどを含めて多くが従事している。まだまだ観光整備が進んでいないので今後も力を入れていく。国策の最終年度が迫っているので、それに向けて尽力している最中である。

## ■ 講師

震災復興企画部 小野寺部長

## ■ 概要説明（資料あり）

- ・ 気仙沼の復興は未来を創る地方創生として取り組んでいる。
- ・ 市外の方々が多く流入している。幅のある人口構成となっている。震災後、嫁として定住（移住）した方々を流入人口として捉えると、多くの方が定住してきて、その方々がテーブル（産業振興）に乗って活動していることで活性化が進んできている。
- ・ 産業振興のために多くの資源（フカひれ等）をブランド化している。
- ・ 漁業、造船、水産加工、運輸等に従事する人口割合は約8割である。
- ・ 人口減少が顕著である。30年後は高齢化率が50%となり、ゆゆしき問題であるし、日本人の魚離れが進んでいる現状もあり、地場産業の衰退が懸念される。
- ・ 東日本震災は歴史の中での大きな事件の一つであると捉えており、大きな災害であることは間違いない。災害状況（人的災害）の集計から高齢者の被害（災害死）が多いことが見られる。被害状況から判断すると、経験値（チリ地震時の災害等）からくる災害被害があったのではと推察される。
- ・ 復興計画は、まちづくり計画（将来像を基本として）として進めている。
- ・ 震災で地盤沈下があり、区画整備事業では3～5mの嵩上（盛り土）を行っている。
- ・ 移住、定住及び定住後に際しての相談窓口を設けている。担当者は移住者であり、相談しやすい環境を整えている。
- ・ 震災後、大きく力を入れてきたのが「人づくり」ではないかと思う。人づくり＝まちづくり
- ・ 若い人（経済同友会より）を中心として、講座を開いてまちづくりを進めている。参加者は女性・市外の人なども多く参加してきた。

講座を通じて連携が図られ、各種事業の展開が進んでいる。今、年代を問わず、まちをどう作っていくのかとの思いが共通してきている。

まちづくりに【わくわく感】を持つという認識が浸透してきたのではないか。
- ・ リーダー育成（小さい組織でも）をしながら、市として一本の大きな流れとしていくように援助している。

## ■ 質疑応答

Q：復興に向けて企業誘致などされているが、インターネット回線の状況は。

A：今後しっかりと進めていく。観光として捉えた時、個々の判断・行政の判断としてやるのかは検討中である。

Q：販路拡大、雇用拡大を言われた。80%が漁業関係であるとされたが、雇用はどのようにしているのか。

A：水産加工などでは人員不足である。事務系は求人倍率が0.4ぐらいであるし、製造系は求人倍率が高い。平均化するのは難しい。3Kと言われる職業においても、就業体制の変革に取り組んでいる。

◎ 食に関して、いかに支援するかを検討した。宮城県としては、復興に向けては食が大事との意見が出された。(復興に際しての御礼)

■ 所感 (提言)

- ・ 災害復興とまちづくりは同一と考えて、まちづくり計画を策定している。本市でも災害があるが、単独ではなく、総合的まちづくりを策定する時期と捉えるべきではないか。

災害復旧というだけでなく、まちづくりの観点から勘案すると、「役所が主導ではなく」「利益優先ではなく」を基本として、人づくりを進めておられる。このような案件を視察できたことは意義深い。今後、本市が取り入れることの一部となり得るのではないか。

- ・ 復旧工事が早期に進められてはいるが、震災以前の状態への復旧は見込めないものの、新たなまちづくりとしての市民力を生かした政策は功をなすものと感じた。

■ 視察風景



## 2 気仙沼市への本市派遣職員との面談

### ■ 職員

今井氏（薩摩川内市職員出向）

### ■ 意見交換

南町海岸公共事業に取り組んでいる。復興予算の申請なども従事している。

### ■ 視察風景



## 3 大崎市図書館の運営・事業等について

### ■ 冒頭あいさつ

横山館長

平成18年に合併して誕生したまちである。市は荒尾川などの河川を含んでおり、稲作生産地である。産業の交通の要所として機能を果たしており、くりこま高原や鳴子温泉などを有している。

図書館に関しては、昨年（29年7月開館）し、本年7月をもって1周年である。来館数は30万人を超えた。

### ■ 講師

横山館長 村上司書

### ■ 概要説明

開館以来、各地の方々や地域の図書館関係者が多く訪れてきた。（説明・事業開設）多くの方に関心を持たれている。

館内視察及び説明質疑

ゆったりとした設計であり、ゆとりある空間で利用促進が図るように建設している。無理をせず、広く利用できるような環境・利用状況としている。

## ■ 質疑応答

Q：総工費は。

A：最終的には、46億円かかっている。(蔵書は含まない)

Q：年間維持費はどのくらいか。

A：図書館要覧より、年間1億3千万円くらいかかる。

Q：図書館寄付はあったのか。

A：多額(大型)の寄付(一人の方)が数年間あった。移動図書館車は約2000万円かかったが、この方の寄付である。

Q：板張りの設計であり、音がしないようだが、市民の意見を活用したのか。

A：鳴子木材が地元産なので活用した。杉材なので若干、音を吸収する。少々の音があった方が利用者は気にならないようである。

Q：行政の予算はどのようになっているのか。

A：だんだん経費が削減されている。研修費は2000万円であり、これでは維持・継続的な運用に支障が出るので、今後要求したい。

## ■ 所感

- ・ 図書館は市民の頭脳とも言える。そのことを十分網羅した施設となっている。

特に、近代的となっているのが、利用者の年代ごとにあわした施設設計となっている点が、素晴らしいものがある。

オープンカフェなどに障害者の活用や、図書館と研修室を併合するなど、新たな発想ではないか。

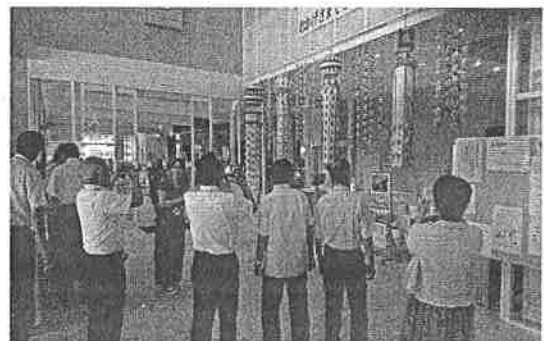
- ・ 公益性は認めるものの、本市において数十億の税金投入は難しいものがある。

現在、運用している図書館の改装・改修を基本として、来場者が増えるような施設改修計画を年次的にやるべきと感じた。

- ・ 図書館が情報発信の場所として融合している点は参考になる事例である。

書物の展示、貸し出しだけでなく、関連する情報パンフレットを展示する、配布する機会があるのは有効である。

## ■ 視察風景







#### 4：鳴子温泉熱を利用したまちづくりについて

##### ■ 講師

鳴子まちづくり株式会社

吉田 専務取締役

国の補助金を活用しての事業であるので制約がかなりあり、事業導入に際して苦労している。国の担当よりは県の担当のほうが、理解が薄いようである。

しかし、借金約3000万円（当初事業費）は本年度で解消した。

遊佐氏

議会事務局にいたことがある。今回の視察が有意義なものになるようにしてほしい。

東北大学農学部 多田 准教授

家庭ごみと温泉熱を活用したバイオエネルギー発電をやっている。家庭ごみを収集するのではなく、各家庭が持ってきて活用するメタンガス利用である。メタンを利用し、喫茶として運営して地域に開放している。

残液は農家に循環するようにして、エネルギーの循環を図っている。副次効果として、ごみを持ってくる高齢者の憩いの場となっていることも温泉熱利用の効果である。地元高校生が命名したが「ごみ」「コミュニティ」を合わせて【ゴミニケーション】と称している。

今後の課題としては、資源の平均した確保をいかにするかである。温泉熱利用の更なる拡大が期待される。メタン発酵は微生物菌である。

##### ★視察時説明

- ・ 泉源は約150度と約220度がある。温度差を利用し、熱交換施設・融雪利用・汚染活用など、温度に適した環境で循環利用している。

- ・ 課題として、温泉であるがゆえに維持費（炭酸カルシウムが送湯管に付着、硫黄などによる腐食等）がかかる。
- ・ 高齢化が進んでいるのは全国同じであるが、若者の後継者がなかなか見つからない現状であり、今後の大きな課題である。（湯守りとの認識の拡大を図りたい）

#### ■ 質疑応答

Q：年間維持費は。

A：約4000万円であるが、収支はイーブンである。

Q：大きな修理などは。

A：配管修理に関しては、行政の支援などが必要である。

#### ■ 所感

- ・ 本市でも泉源がある。今回は泉源の温度が高い地域である利点を有効に活用されている事例であり、温泉熱を活用してエコエネルギーの発展の要因を確認できた。

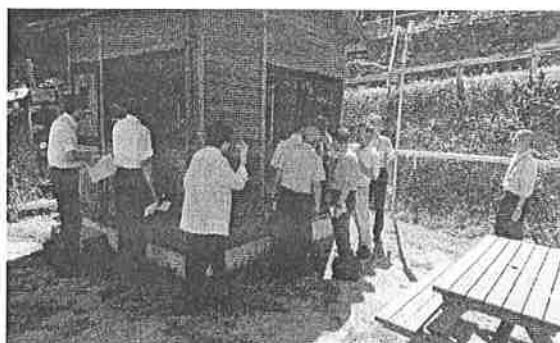
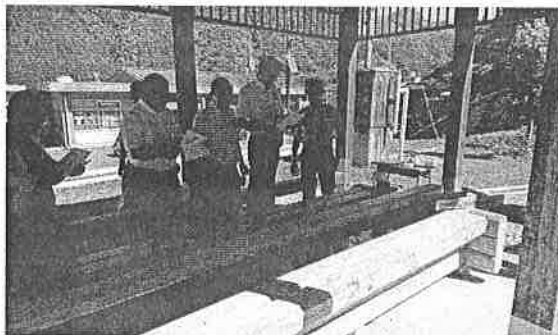
今後の利用策として、観光だけではなく、地域活性化や1次産業（農業など）を総合的に網羅した事業計画を推進すべきではないだろうか。

- ・ 地球資源を一元的な利用だけではない形で事業化している点は、これからの社会における循環型エネルギー政策の一因ではないだろうか。

そのような事業をされていることは、今後の日本社会における重要エネルギー政策として見てとれる。

そのことから、本市でも原子力を基本エネルギーとして、社会循環型エネルギーとしての研究も必要であると思われる。

#### ■ 視察風景





# 視 察 報 告 書

平成31年1月31日

薩摩川内市議会  
議長 福田俊一郎 様

自民むつみ会  
代表 瀬尾 和敬



政務活動費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

1. 視察年月日 平成31年1月28日（月）～30日（水）
2. 視察参加者 瀬尾 和敬、福田 俊一郎、川畑 善照、宮里 兼実  
川添 公貴、福元 光一、徳永 武次
3. 視 察 地 ① 岡山県玉野市  
② 岡山県新見市
4. 視 察 事 項 ① たまの版生涯活躍のまち基本計画について  
② ICT教育の推進について

視察の概要は次のとおりでした。

1月29日 岡山県玉野市

## 「たまの版生涯活躍のまち基本計画」について

### 【対応者】

副議長 渚 洋一氏 議会事務局主幹 山田豊信氏  
政策財政部 総合政策課 課長 小笠原隆文氏  
政策財政部 総合政策課 生涯活躍のまち推進室 室長 多田由美子氏  
政策財政部 総合政策課 生涯活躍のまち推進室 主任 佐藤 健介氏

### 【玉野市の概要】

玉野市は、岡山県の南端に位置し、瀬戸内海の美しい自然に恵まれた、風光明媚で温暖な気候の港町である。市の中心部にある宇野港は、岡山県の海の玄関口であり瀬戸内海の海上交通の重要拠点として発展してきた。フェリーの定期航路のほか、近年では大型船舶が着岸できる耐震バースに外国からのクルーズ客船の寄港も増えている。

産業については、造船業の企業城下町として発展してきたこともあり、多くの造船関連企業が集積する「ものづくりのまち」といわれ、製造業が中心となっている。

近年、市民のまちづくりに対する参画意識が高まっていることから、地域が主体性を持ち、その能力を十分発揮できるよう市民活動の積極的な支援を行い、市民と行政との協働によるまちづくりを進めるとともに、本市を取り巻く環境の変化に適切に対応し、限りある財源の中で事業の選択と集中を行いながら、「安心・活力・支えあい～みんなで築く自立都市」を将来像として掲げ、地域の特色を生かした満足度の高いまちづくりを進めている。

### ○副議長 歓迎のあいさつの概要

玉野市は40年で2万人ほど人口が減少した。定住促進は進んでいない。典型的な工業都市であるので、企業の省力化により従業員数が減少したことが人口減の主因である。

過去はフェリーは24時間営業で150便運行しており活気があったが、瀬戸大橋の完成により、現在は5便となり人の流れが変わってきた。今後、市民のために何を残すかが課題である。

視察目的のCCRseaは国の政策を受けて進めているが、なかなか思うように進んでいないのが現状である。薩摩川内でのご意見等があればお聞かせ願いたい。

### 【視察テーマの概要説明】

- ・宇野港が四国への玄関口として機能している。観光客は宇野を中心として動いている。
- ・長期人口ビジョンによると、玉野市の人口は2040年には4万人となる予想である。凄まじい人口減少である。市内に從事せず市外へ働きへ出る人が多く、労働力の減少をも招いている。
- ・医療費が県内の中でも高く推移している。
- ・以上のような原因から、生涯活躍への課題と健康づくりを核として「たまの版生涯活躍のまち基本計画」を策定し官民一体となって施策を進めている。
- ・事業推進団体（主体）への補助・協力も進めており、将来的には自立するようにしている。
- ・大学や若者を活用して、「たまの版生涯活躍のまち」について広く市民に広報し、定住促進へつながるようにしている。
- ・個人向け健康食の開発にも取り組んでいる。（ヘルスケアサービス）
- ・企業への健康プログラムも検討している。また、インバウンドの対策も研究している。
- ・健康と宿泊とセットでの取り組みを進めている。市内にあるものを活用して健康づくりと

宿泊を進めている。内容については大学と連携して、数値化をしている。（目で見える効果）

- ・街中（ショッピングモール等）でも健康づくりができるように施策を打っているが、民生委員などの会合などを通して、市民の方々へ周知し、活用して頂くようにしている。
- ・HP で移住コンシェルジュを紹介して、事業内容を広報している。

### 【質疑応答】

Q:「たまの版生涯活躍基本計画」は総合計画として取り入れてもいいような内容と思われるがどうか。

A:新たな総合計画を30年度に作成している。重点施策として生涯活躍のまちとして、位置づけたところである

Q:人が健康であることが大事である。特定健康診断の受診率を高めていくための一環であると感じるが受診率向上への施策は。

A:医師会と連携している。市民はよく病院へ通っているが、特定健診としての受診は少ないので医師会へ協力依頼して取り組みを強化していくように進めている。結果として、医療費は上がっているが、予防健康への意識は低い。

Q:幅広い施策がある中で、健康づくりは重要であることは理解する。観光と健康づくりを売り出しておられるがその内容をもう少し紹介してほしい

A:JTB のアドバイスを受けて、玉野競輪があるので、その施設を利用して実際バンクを走ってもらうなど、健康づくりに結び付けられないか検討し、対策を打っている。また、これに関しては問い合わせが多いので商品開発を進めている。

Q:健康づくりを主体としての事業であるが、家を出かけることができない方々への支援・施策はどのようになっているのか

A:デイサービス利用者には、ケアマネなどを通じて紹介している。病気への予防が中心である施策であるので、健康福祉と介護福祉とは別である。今後は、ブラインドサッカーなどの誘致なども検討し、総合的な健康づくりを目指していく。

Q:「たまの版生涯活躍のまち」への初年度の参加人員は。

A:参加者は約5000人ほどである。

Q:参加者のすそ野を広げる施策は。

A:国の交付金の要綱で将来的には自立しなければならないので、稼ぐ手段を検討している。そのことが裾野を広げる事につながると考えている。

Q:薩摩川内と同じような人口減少率である。「たまの版生涯活躍のまち」の事業費はどうなっているか。

A:国からの推進交付金は3年間で3億円事業の半額である。今後市よりの補助も削減する予定である。

### 【所感】

「たまの版生涯活躍のまち」は国が示した、都市から地方への高齢者の移住を促進し、さらに移住した高齢者が地方で積極的に社会参加することにより、地方の活性化を促す、という考え方を基本にして、玉野市独自の考え方として、移住者や高齢者のみならず、市民も、若者も、障がいを持つ人も「誰もが活躍」という視点を加え取り組みを展開されている。

30年前に関連自治体に大きな期待を抱かせて瀬戸大橋は開通したが、その瀬戸大橋の開通により、玉野市は大きく様変わりしたようだ。離島へのフェリーが、5社で1日150便程往來していたものが、瀬戸大橋を利用する人が多くなり、現在では1社、わずか5便しか運航していないという。このことが就労者減少、人口減少の大きな引き金になったようだ。また併せて、少子高齢化も進み何とか市を挙げて対策を打とうとしているのが「たまの版生

涯活躍のまち基本計画」であると思われる。

玉野市では、この基本計画を推進するために、着地型観光商品の開発、パッケージツアーの開発、健康食品の開発、宿泊型保健指導プログラムの開発、施設有効活用プログラムの開発、大学連携、健康づくり講座など既存の各種講座の充実など多くの施策が講じられているが、薩摩川内市の市民福祉部や商工観光部、企画政策部、また株式会社薩摩川内市観光物産協会などで取り組んでいる、高齢者福祉や交流人口増対策、シティーセールス、スポーツ振興などとほぼ似たような施策であると思われる。

この計画は、2018年度から2020年度までの3年で打ち切り、後はそれぞれの分野で独立して施策が講じられることになっているというが、折角高く掲げられたアドバルーンが萎んでいくような気がしてならない。

ただ、人口減少やまちの疲弊にただ手をこまねているばかりでなく、何とか立ち向かおうとされる意気込みは評価したいと思う。



【渋川海岸での健康づくり教室の視察】



【「たまの版生涯活躍のまち」の研修】

## 1月30日 岡山県新見市 ICT教育の推進について

### 【対応者】

新見市立哲西中学校 校長 小藤一成氏 教頭 藤野哲久氏  
教育委員会学校教育課 参事 竹元 涉氏  
教育総務課 主事 森本雄太氏 主査 安達正紀氏

### 【新見市の概要】

新見市は、岡山県の最西北端、高梁川の源流域に位置し、東は真庭市、南は高梁市に、そして北は鳥取県日野郡、西は広島県庄原市に接している。面積は、793.29km<sup>2</sup>で岡山県の11.2%を占め、全域が中国山地の脊梁地帯に属するため起伏の多い地形で、総面積の86.3%の684.56km<sup>2</sup>(H27農林業センサス)を森林が占めている。

新見市は、古代の律令制のもとで、高梁川の東側は阿賀郡、西側は哲多郡と呼ばれ、明治のはじめまで砂鉄を溶かすたたら製鉄が盛んに行われていた。平安時代末期になると、税を

納めないという特権を持つ荘園に組み入れられていく地域も多く見られるようになり、新見庄、永富保などの荘園が整えられた。現在も、新見庄の荘園領主であった京都東寺には、関係文書が多く残されている。

江戸時代になり、元禄10年に関備前守長治が初代新見藩主として移封された新見藩、高梁の松山藩、幕府直轄の天領に分割された。

明治4年の廃藩置県で新見藩は新見県に、他の地区は倉敷県となり、その後、深津県、小田県と改称され、同8年岡山県に合併された。同22年に市町村制が施行され、同33年に阿賀郡（旧北房町を除く）と哲多郡が合併して阿哲郡となり、昭和30年頃の「昭和の大合併」などを経て、新見市、大佐町、神郷町、哲多町、哲西町となり、それぞれ50年の歴史を刻み、平成17年3月31日、新見市と大佐町、神郷町、哲多町、哲西町が新設合併し、新新見市が誕生した。

## ○哲西中学校小藤学校長あいさつの概要

本校は70名程度の生徒数であり優しい子供が多い。文科省の補助事業を確保してICTを導入した。生徒一人一人にiPadを貸与して活用している。特別教室も含め全教室IWB(電子黒板)を配置して、生徒教師間の相互の情報共有や勉強ができるようにしている。

### 【視察テーマの概要説明】

- ・新見市の教育方針は「ふるさとを愛し、世界で活躍するたくましい子どもの育成(塩から子)」である。塩から子とは、方言で「やんちゃな子」を意味するが、ここでは「何事にも積極的に取り組み逞しく生きることができる子ども」のことである。
- ・新見市は英語教育にも力を入れている。ALTも多く配置して推進している。
- ・昨年度から、プログラミング教育にも力を入れている。3か年計画で進めている。
- ・本市では全中学校にICTを核として、学力向上を目指している。そのために学校内の無線LANの整備もしている。
- ・本年度より、小学校へのIWB(電子黒板)を配備した。中学校の実績として教師が活用し効果が出てきているので小学校への配布を決めた。
- ・機器の持ち帰りは原則できないようにしている。無線LANが無いので家庭に持ち込んでも活用ができない。
- ・クラウドを活用している。教師が原稿などをクラウド内に保存し、生徒が閲覧し活用している。
- ・生徒は文房具を扱うようにiPadを違和感なく活用している。
- ・学力向上にどのくらい効果があったかとよく質問されるが、数値化がむづかしいので答えを出すことが出来ない。ただ、iPadの活用により表現力・発表力の向上が見られる。全国学習学力テストの結果として、全国平均より上位である。
- ・ICTの活用による授業時間短縮ができています。
- ・ワークシートを集中して教師が見ることが出来るので、教室内の巡回などが無い。指導する生徒のシートの内容を即時に見ることが出来、適切に指導ができています。
- ・iPadをどのようなときに活用していくのがいいのかも含め研究もしており、またどの様な学習内容で活用できるかも研究している。
- ・今後の課題として、小学生の学年別に指導の内容(ICT活用)を精査・研究することである。

### 【質疑応答】

Q:ドロップボックス(クラウド)の容量はどのくらいか。無料との説明があったが。



A:1台当たりの通信量は2GBであるので無料の範囲内である。

Q:ポスターなどの作成に係るソフトは、流通しているものか、それとも自己ソフトか。

A:教師が参考になるものを見つけて、クラウドへアップし活用している。

Q:教師の指導体制は。

A:教育会館センターが有り、その中にデータを処理するクラウドを持っているので教師が共通して利用している

Q:iPadへの教師の習熟度はどの程度か。年齢層によって苦手な教師はいないか

A:年齢による差はない。むしろ「得手」「不得手」の個人差はある。

Q:教師には転勤があるが、転勤した教師の感想などは。

A:市内は共通であるが、市外に転勤した教師はICT利用が無くなり不便を感じているとのこと。

Q:ICT導入に係る教育長の意気込みはどのようであったか

A:ICT導入へは前市長が教育力向上のために積極的であった。

Q:新見市の中学校ではICTで教育を受けているが、高校ではどのようになっているのか

A:高校は活用していないので、今後高校との連携も視野に入れて検討すべきだろう。

Q:ICT教育が学力向上につながっているか。

A:ピンポイントで数値は取っていないが表現力向上が顕著である。本市は全国学力テストでは全国平均より上である。

Q:部(クラブ)活動での活用はどのようにされているのか。

A:まずは、使用上のルールをしっかりと決めて運用している。地域性ではあるが、地域・保護者が

学校に対して協力的であるので、運用はしっかり出来ている。また、部活動は運動部なので、運用はしていないが、生徒活動では十分活用している。

Q:タブレット使用による目に対する健康面はどうなっているのか。

A:養護教諭の報告では年々弱視化が進んではいるものの、タブレットなのかスマホなのか不明である。社会的要因ではないかと判断している。

## 【所感】

視察した哲西中学校は、全校生徒が70名程であり、全員にiPadが貸与されているが、実際授業風景を見たとき、iPadが教育に溶け込んでいるという実感があった。校長先生が「生徒が素直なところがいい」と言われたが、実際iPadを使った授業を見せて頂いた時、どの教室に行っても一斉に挨拶をしてくれて、またすぐに授業に打ち込んでいた。

新見市では、平成22年度から総務省の「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」に参画、高尾小学校に校内無線LANの整備、1人1台のタブレット端末(全75台)の配備、普通教室への電子黒板(IWB)の導入(6台)、平成23年度には、総務省の「ヒューチャースクール推進事業」、文部科学省の「学びのイノベーション事業」に参画、今回視察した哲西中学校に、校内無線LANの整備、1人1台のタブレット端末の配備、普通教室特別教室へ全11台の電子黒板の整備を進め、平成26年度、満を持して「新見市ICT活用教育推進事業」を開始した。平成30年度には、市内全小学校の6年生教室への電子黒板設置及びデジタル教科書の導入も行っている。

平成29年度から、ソフトバンク社が実施するPepper社会貢献プログラムにも参加、教員を対象にしたPepperプログラミングについて研修からスタートした。教員は悪戦苦闘しながらも児童生徒にプログラミングの楽しさを伝えたいとの思いで研修に取り組み、授業の組み立てなどの検討を進めてきた。現在では、新見市の全小中学校で、総合学習の時間を利用してプログラミングの授業を行っているという。

生徒たちは、iPad を駆使して、ポスター作製をするのはお手のもの、中学生が小学生に対して iPad の使い方やプログラミングについて指導をするまでに高まっているようだ。

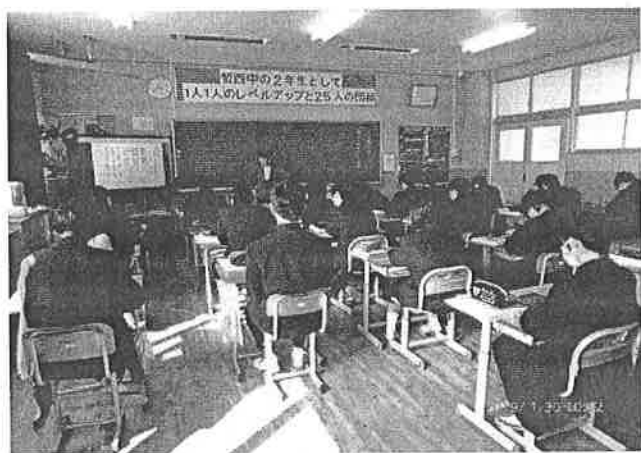
視察した哲西中学校は小規模校とはいえ、ICT 教育に取り組む姿勢は並大抵のものではないと感じた。ここまで高まった背景には、指導する教師、指導される子供たちの努力はもろんであるが、保護者の理解もあったはずである。

生徒数が減少する哲西中学校ではあるが、このような過疎地でも ICT を使った立派な授業ができる、都会に負けない立派な教育ができる、といった気概が溢れていた。

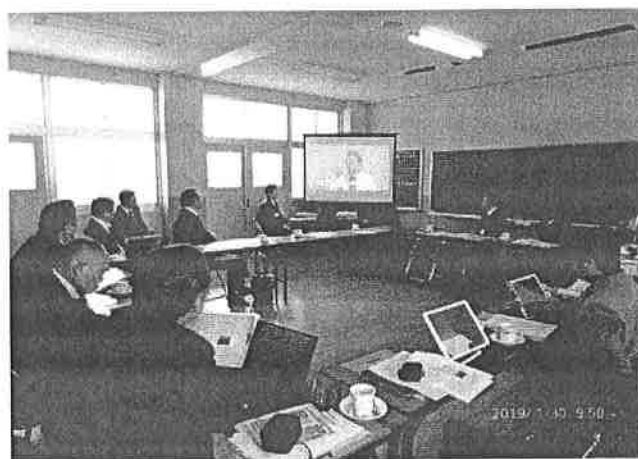
我が薩摩川内市では毎年のように教育用のパソコンの更新が行われており、ICT 教育の一環として、パソコンを使った授業が盛んに行われているはずであるが、実際その様子を見たことがない。これは大いに反省すべきことだ。

今回の政務調査は、我がまちの ICT 教育をしっかりと見つめるべし、と指摘してくれた。

今後議会活動の一環として、総務文教委員会もしくは会派で、本市の ICT 教育を視察すべきであると認識した。



【電子黒板を使った授業風景】



【新見市の ICT 教育の研修】

# 視 察 報 告 書

平成31年3月29日

薩摩川内市議会  
議長 福田俊一郎 様

自民むつみ会  
代表 瀬尾 和敬



政務活動費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

1. 視察年月日 平成31年3月27日（水）～28日（木）
2. 視察参加者 瀬尾 和敬、川畑 善照、宮里 兼実、川添 公貴  
福元 光一、徳永 武次
3. 視 察 地 ① 熊本県玉名市 日立造船株式会社 有明工場  
② 福岡県豊前市 九州電力株式会社 豊前蓄電池変電所
4. 視 察 事 項 ① 使用済核燃料の乾式貯蔵・輸送に係るキャスクについて  
② 太陽光を活用した大容量蓄電システム実証施設について

視察の概要は次のとおりでした。

## 27日 熊本県玉名市 日立造船株式会社

### 【調査項目】 使用済み核燃料の乾式貯蔵・輸送に係るキャスクについて

#### 【対応者】 日立造船株式会社機械事業本部プロセス機器ビジネスユニット

推進室長 森本 好信氏 参事 野一色宏志氏 岩男 義明氏

参与 網干 威氏

五葉物産株式会社 上席執行役員営業推進本部長 川浪 大義氏

#### 【説明の概要】

1973年、会社設立当初は肥料等の貯蔵などを目的として始まったが、1997年、乾式キャスクを製造するようになった。船舶会社とは別会社としている。製造した輸送キャスクで使用済み燃料をフランス等に運んでいた。2000年になってからアメリカや中国向けに製造していたが、現在は国内向けの貯蔵用として製造している。造船による技術力を生かして、より安全なキャスクの製造を行っている。

#### 【製造現場視察】

ビデオで工場の概要説明を受けた後、製造工程を現場で視察したが、写真撮影は許可されなかった。

#### 【質疑応答】

Q:他の乾式キャスクのメーカーは？

A:神戸製鋼、三菱重工業等がある。

Q:型式証明の申請はどのようになっているか。

A:現在、原子力規制委員会に申請中である。

Q:九州電力では玄海原発に乾式キャスクを使用すると発表しているが、川内原発に使用する動きはないか。

A:当社としては九電と協議中である。

Q:使用済み核燃料の安全性についての認識は？

A:福島原発事故の際、乾式キャスクでの貯蔵の安全性が見直されたものと理解している。

Q:使用済み核燃料の貯蔵方法として、乾式キャスクと水冷との比較は？

A:運転管理の容易性、技術の斬新性、経済性等に優れている。また、キャスクの周囲をコンクリート製の建物で取り囲み、放射線を遮へいしており安全性は確保されている。

#### 【所感】

広大な日立造船所の同じ敷地内に乾式キャスクの製造工場は建てられていたが、工場内では造船で培われた細やかな溶接技術を駆使して、海外向けの乾式キャスクが製造中であった。アメリカや中国からの問い合わせがあるなど、乾式キャスクの需要は高まっているようだ。

乾式キャスクに使用済み核燃料を貯蔵するためには、約10年間プールで水冷する必要があると言われている。川内原発の使用済み核燃料も1500体を越えており、水冷プールも容量の6割を超えていると聞く。東日本大震災による福島原発事故の際、乾式キャスクでの貯蔵の安全性が見直されたがいずれ乾式キャスクでの貯蔵に移行する時期がくるのではないかと思われる。

## 28日 福岡県豊前市 九州電力北九州配電総括センター

### 【調査項目】 太陽光を活用した大容量蓄電システムの実証施設について

【対応者】 九州電力送配電総括センター電力部  
副部長 山田 哲氏 技術サービス課長 古川 安幸氏

### 【説明の概要】

当社は、国産エネルギーの有効活用並びに地球温暖化対策面で優れた電源であることを踏まえ、地熱、水力、バイオマス、風力、太陽光などの再生可能エネルギーについて、グループ一体となった開発や地域社会との共同開発など、積極的な導入を推進している。

九州地方では、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの普及が急速に進んでおり、今後これらを最大限に受け入れられるよう取り組んでいる。

太陽光発電が大量に導入されると、電圧や周波数などの電気の品質に影響を与えるため、系統安定化対策に取り組む必要がある。この取り組みの一環として、国の補助金を活用した「大容量蓄電システム需給バランス改善実証事業」に取り組んでいる。

この豊前蓄電池変電所は世界最大級の容量であり、太陽光で発電した余剰の電気を充電したり電気の使用量の多い時間帯に放電したりすることで、電気の発電量と使用料のバランスを改善することにつながる。この機能を活用することで、再生可能エネルギーの円滑な接続並びに高品質かつ安定した電力供給に貢献していきたいと考えている。

### 【質疑応答】

Q:九州電力では太陽光発電の受け入れ制限をしているが、蓄電システムが充実すればそれはなくなるか。

A:電力の需給バランスが崩れると、電気の品質(サイクル)が落ちたり、ブラックアウトが起きたりするので受け入れ制限をしている。豊前蓄電池システムは実証段階であり、現在の規模では受け入れ制限を回避する状況にはない。

Q:蓄電システムに対する国の補助金はいくらか。

A:200億円である。

Q:薩摩川内市で取り組むスマートハウスタウンに、このような蓄電システムは採用できないか。

A:経費が余りにもかかりすぎるので現状では無理だと思われる。

Q:豊前蓄電池変電所の管理体制はどうなっているか。

A:豊前蓄電池変電所は無人であるため、充放電司令や設備の監視は有人の遠隔地で行っている。大容量蓄電システムの充放電司令及び充放電状態の監視は、中央給電指令所(福岡市)から行う。指令所では、毎日の電気の使用量(需要)と発電量(供給)の想定に基づき大容量蓄電システムの充放電量を決定し需給バランス向上に向けた運用を行っている。

### 【所感】

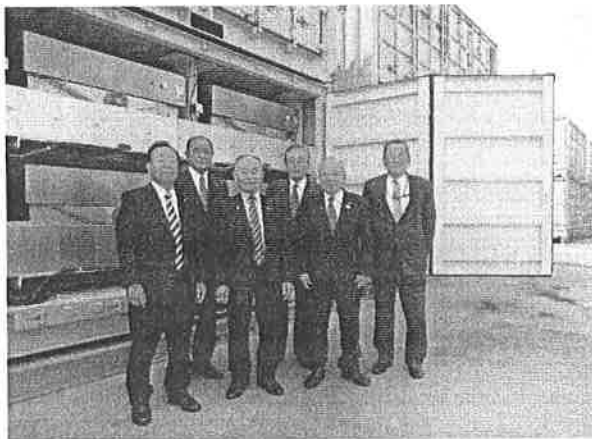
太陽光発電量は、九州本土で800万kWを超え電力量が余剰状態となっている。蓄電システムを活用することでブラックアウトを回避する狙いがあるようだ。しかし、視察した豊前蓄電池変電所は5万kWの出力で容量が30万kWしかなく、現段階では焼け石に水状態ではある。しかし、原発に代わる再生可能エネルギーとして大きな期待を担っている太陽光発電について、何とか手を打とうとする姿勢はある程度評価したい。個人で設置する蓄電装置とは桁が違うが、これらの実証を踏まえ、蓄電技術が進歩することを期待したい。



【乾式キャスク工場の視察を終えて】



【乾式キャスクについての研修】



【大容量蓄電池の前で】



【蓄電池の稼働表示パネルの前で】

領 収 証

No 365013

自民むつし会 様

平成30年 7月 26日

下記の通り領収致しました

合計金額 ￥ 578,830 -

鹿児島市中央町18番地1

南国交通株式会社

電話 (099)255-2141



摘 要	金 額	備 考
航空券代 7/30 ANA622 鹿児島-羽田	93,730	旅割45
" 8/1 SNA77 羽田-鹿児島	118,930	35バーン
JR券代'	218,470	V
宿泊代'	147,700	
消 費 税		発行部所
合 計	¥578,830-	川内営業所 (0996)23-2161

領 収 証

No 365020

自民むつし会 様

平成30年 8月 13日

下記の通り領収致しました

合計金額 ￥ 12,780 -

鹿児島市中央町18番地1

南国交通株式会社

電話 (099)255-2141


収入印紙欄



摘 要	金 額	備 考
航空券取消手数料	12,780	
福田議員 体調不良による取消手数料 払戻手数料 430円 x 2 = 860円 取消手数料 准路分 5240円 旅路分 6680円		
消 費 税		発行部所
合 計	¥12,780 -	川内営業所 (0996)23-2161

# 調査研究費

## 市内旅費領収明細書

整理番号	日付	出張用務	起点 ~ 終点	旅費額	領収日	領収印	備考
1	7月30日 8月1日	会派視察市内旅費	大裏 ~ 藺牟田	440円	8/2		
2	7月30日 8月1日	会派視察市内旅費	陽成 ~ 高来	300円	8/2		
3	7月30日 8月1日	会派視察市内旅費	東郷 ~ 樋脇	590円	8/2		
4			~	円			
5			~	円			
6			~	円			
7			~	円			
8			~	円			
9			~	円			
10			~	円			
11			~	円			
12			~	円			
13			~	円			
14			~	円			
15			~	円			
16			~	円			
17			~	円			
18			~	円			
19			~	円			
20			~	円			

計 1,330円

※ 薩摩川内市職員等旅費の支給に関する条例施行規則に準じて支出



## 政務活動費支払証明書

使途項目 調査研究費

支 払 年月日	支 払 額	支 払 先	使 途 及 び 内 容	添付できない 理 由
H30.7.30 H30.8.1	3,100 円	南国交通	永利入口から空港ま でのバス賃	当日、乗車券を 購入したため
〃	3,100 円	南国交通	上川内から空港まで のバス賃	当日、乗車券を 購入したため
〃	3,100 円	南国交通	川内駅から空港まで のバス賃	当日、乗車券を 購入したため
〃	3,100 円	南国交通	上川内から空港まで のバス賃	当日、乗車券を 購入したため
〃	2,180 円	南国交通	藺牟田温泉から空港 までのバス賃	当日、乗車券を 購入したため
〃	3,100 円	南国交通	京セラ川内前から空 港までのバス賃	当日、乗車券を 購入したため
〃	2,600 円	南国交通	ねれ北から空港まで のバス賃	当日、乗車券を 購入したため
合 計	20,280 円			

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成 3 0 年 8 月 1 日

会派名 自民むつみ会  
代表者 徳永 武次



## 政務活動費支払証明書

使途項目 調査研究費

支 払 年月日	支払額	支払先	使途及び内容	添付できない 理由
H30.7.30	2,870 円	京浜急行電鉄	羽田国内線ターミナル ～品川駅 (7人分) <small>410円×7人</small>	領収書発行が できないため
H30.8.1	2,870 円	京浜急行電鉄	品川駅～羽田国内線ターミナル (7人分) <small>410円×7人</small>	領収書発行が できないため
合計	5,740 円			

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成 30 年 8 月 1 日

会派名 自民むつみ会

代表者 徳永 武次



調査研究費

図書館→古川駅  
領収書

No. 1034

日付 2018年 07月 31日  
車番 000507 0000  
基本運賃 ¥670円  
合計 ¥670円

上記の様に領収致しました

毎度ご乗車ありがとうございます。  
忘れ物のお問い合わせ  
お気づきの点は、  
下記にご連絡下さい。

一カタクシー株式会社

大崎市古川幸町一丁目2-25  
TEL 0229 (24) 2800

古川駅→大崎図書館  
領収書

2018年 07月 31日  
車両番号 0403  
運賃 ¥670円

合計 ¥670円  
立替 円

(有)古川観光タクシー

大崎市古川北町1-3-28

☎ 0229-22-1125

古川駅→大崎図書館  
領収書

No. 4125

日付 2018年 07月 日  
車番 000503 0000  
基本運賃 ¥670円

合計 ¥670円

上記の様に領収致しました

毎度ご乗車ありがとうございます。  
忘れ物のお問い合わせ  
お気づきの点は、  
下記にご連絡下さい。

一カタクシー株式会社

大崎市古川幸町一丁目2-25  
TEL 0229 (24) 2800

図書館→古川駅  
領収書

2018年 07月 31日  
車両番号 0402  
運賃 ¥670円

合計 ¥670円  
立替 円

(有)古川観光タクシー

大崎市古川北町1-3-28

☎ 0229-22-1125

領収書  
役所→気仙沼駅  
No. 5276

日付 2018年 07月 31日  
車番 000530 0000  
基本運賃 ¥1,120円

合計 ¥1,120円

上記の様に領収致しました  
毎度ご乗車

ありがとうございます。  
忘れ物のお問い合わせ  
お気づきの点は、  
下記にご連絡下さい。

(株) 気仙沼観光タクシー

気仙沼市田中前三丁目7番3号

TEL 0226 (22) 6000

領収書  
役所→気仙沼駅  
No. 4008

日付 2018年 07月 31日  
車番 000518 0000  
基本運賃 ¥1,120円

合計 ¥1,120円

上記の様に領収致しました  
毎度ご乗車

ありがとうございます。  
忘れ物のお問い合わせ  
お気づきの点は、  
下記にご連絡下さい。

(株) 気仙沼観光タクシー

気仙沼市田中前三丁目7番3号

TEL 0226 (22) 6000

合計 4,920円

調査研究費

# 領 収 証

平成 30 年 8 月 9 日

自民つみ会・公明党 殿

金 額			¥	1	2	0	3	6
-----	--	--	---	---	---	---	---	---

但 地産代として (3ヶ所分)

参加人数により概分

自民つみ会  $12036円 \div 9人 \times 7人 = 9361.3円 = 9361円$

公明党  $12036円 \div 9人 \times 2人 = 2674.6円 = 2675円$

上記正に領収いたしました

## 白 石 酒 店

〒895-0055 鹿児島県薩摩川内市西開聞町11-32  
TEL・FAX 0996-22-7215

収 入

印 紙

扱 者 印



調査研究費

領 収 証

No.371058

薩摩川内市議会  
自民むつみ会 様



平成31年 1月 24日  
下記の通り領収致しました  
合計金額 ￥ 420,490-

鹿児島市中央町18番地1  
南国交通株式会社  
電話 (099)255-2141



摘 要	金 額	備 考
視察費として	420,490	
消 費 税		発 行 部 所
合 計	¥420,490-	川内営業所 (0996)23-2161

# 調査研究費

## 市内旅費領収明細書

整理番号	日付	出張用務	起点～終点	旅費額	領収日	領収印	備考
1	1月28日 1月30日	会派視察市内旅費	大裏 ～ 平佐西	1630円	1/31		
2	1月28日 1月30日	会派視察市内旅費	隈之城 ～ 平佐西	220円	1/31		
3	1月28日 1月30日	会派視察市内旅費	陽成 ～ 平佐西	670円	1/31		
4	1月28日 1月30日	会派視察市内旅費	東郷 ～ 平佐西	590円	1/31		
5	1月28日 1月30日	会派視察市内旅費	亀山 ～ 平佐西	220円	1/31		
6	1月28日 1月30日	会派視察市内旅費	永利 ～ 平佐西	300円	1/31		
7			～	円			
8			～	円			
9			～	円			
10			～	円			
11			～	円			
12			～	円			
13			～	円			
14			～	円			
15			～	円			
16			～	円			
17			～	円			
18			～	円			
19			～	円			
20			～	円			

計 3630円

※ 薩摩川内市職員等旅費の支給に関する条例施行規則に準じて支出。

# 調査研究費

ホテル ~ 哲西中学校

## 領収書

2019年01月30日-004

メーター運賃 ¥6,260円

合計 ¥6,260円

現金支払 ¥6,260円

車両番号 0105

毎度ありがとうございます。

**(株)新見交通**

新見市高尾2393-4

☎ 0867-72-0258

## 領収書

2019年01月30日-006

メーター運賃 ¥6,420円

合計 ¥6,420円

現金支払 ¥6,420円

車両番号 0101

毎度ありがとうございます。

**(株)新見交通**

新見市高尾2393-4

☎ 0867-72-0258

哲西中学校 ~ 新見駅

## 領収書

2019年01月30日-002

メーター運賃 ¥5,940円

合計 ¥5,940円

現金支払 ¥5,940円

車両番号 0105

毎度ありがとうございます。

**(株)新見交通**

新見市高尾2393-4

☎ 0867-72-0258

## 領収書

2019年01月30日-018

メーター運賃 ¥6,020円

合計 ¥6,020円

現金支払 ¥6,020円

車両番号 0111

毎度ありがとうございます。

**(株)新見交通**

新見市高尾2393-4

☎ 0867-72-0258

合計 24,640円

調査研究費

視察先への土産代(2ヶ所分)

# 領 収 証

平成 31 年 2 月 28 日

自民むつみ会・公明党 殿

金 額				¥	5	9	8	2
-----	--	--	--	---	---	---	---	---

但 お土産代として(2ヶ所分)

参加人数により按分

自民むつみ会  $5982円 \div 9名 \times 7名 = 4652.6円 = 4653円$

公明党  $5982円 \div 9名 \times 2名 = 1329.3円 = 1329円$

上記正に領収いたしました

白 石 酒 店 

〒895-0055 鹿児島県薩摩川内市西開聞町11-32  
TEL・FAX 0996-22-7215

収 入  
印 紙

扱 者 印





調査研究費

領 収 証

No.378211

自民むつし会 様

平成31年3月26日

下記の通り領収致しました

合計金額 ¥198,600 -

鹿児島市中央町18番地1

南国交通株式会社

電話 (099)255-2141



摘 要	金 額	備 考
視察代として	198,600	
消 費 税		発 行 部 所
合 計	¥198,600-	川内営業所 (0996)23-2161

## 市内旅費領収明細書

整理番号	日付	出張用務	起点～終点	旅費額	領収日	領収印	備考
1	3月27日 3月28日	会派視察市内旅費	大婁 ～ 平佐西	1630円	3/29		
2	3月27日 3月28日	会派視察市内旅費	陽成 ～ 平佐西	670円	3/29		
3	3月27日 3月28日	会派視察市内旅費	東郷 ～ 平佐西	590円	3/29		
4	3月27日 3月28日	会派視察市内旅費	亀山 ～ 平佐西	220円	3/29		
5	3月27日 3月28日	会派視察市内旅費	永利 ～ 平佐西	300円	3/29		
6			～	円			
7			～	円			
8			～	円			
9			～	円			
10			～	円			
11			～	円			
12			～	円			
13			～	円			
14			～	円			
15			～	円			
16			～	円			
17			～	円			
18			～	円			
19			～	円			
20			～	円			

計 3,410円

※ 薩摩川内市職員等旅費の支給に關する条例施行規則に準じて支出

# 調査研究費

## 領 収 書

No. 8614

日付 2019年 03月 28日

車番 000202 0000

基本運賃 ¥960円

合計 ¥960円

上記の様に領収致しました

毎度、ご乗車ありがとうございます

〒828-0021 豊前市八屋2076-3

豊前タクシー(有)

タクシーのご用命は

本社 0979-83-3462

合河 0979-83-2054

## 領 収 書

No. 5583

日付 2019年 03月 28日

車番 000210 0000

基本運賃 ¥960円

合計 ¥960円

上記の様に領収致しました

毎度、ご乗車ありがとうございます

〒828-0021 豊前市八屋2076-3

豊前タクシー(有)

タクシーのご用命は

本社 0979-83-3462

合河 0979-83-2054

宇島駅

~ 豊前蓄電池変電所

の往復タクシー代

合計 9280円

## 領 収 書

No. 0048

日付 2019年 03月 28日

車番 000504 0000

基本運賃 ¥640円

合計 ¥640円

上記の様に領収致しました

ご乗車有難うございました。

次回のご利用をお待ちしています。

豊前市大字八屋2065の1

文化・宇島太陽交通(株)

タクシーの御用命は

電話 0979-83-3939

フリーダイヤル 0120-350-303

## 領 収 書

No. 2278

日付 2019年 03月 28日

車番 000560 0000

基本運賃 ¥720円

合計 ¥720円

上記の様に領収致しました

ご乗車有難うございました。

次回のご利用をお待ちしています。

豊前市大字八屋2065の1

文化・宇島太陽交通(株)

タクシーの御用命は

電話 0979-83-3939

フリーダイヤル 0120-350-303

調査研究費

視察先への土産代 2ヶ所分

領 収 証

平成 31 年 3 月 22 日

自民むっみ会 殿

金 額				¥	5	9	8	2
-----	--	--	--	---	---	---	---	---

但 お土産代として

収 入  
印 紙

上記正に領収いたしました

白 石 酒 店 ●

〒895-0055 鹿児島県薩摩川内市西開聞町11-32  
TEL・FAX 0996-22-7215

扱者印



# 会報費

## 領 収 証

平成31年 3月20日

薩摩川内市議会  
自民むつみ会 様

¥ 50,000.-

但し 自民むつみ会 会報 データ作成・印刷代として

5000部作成

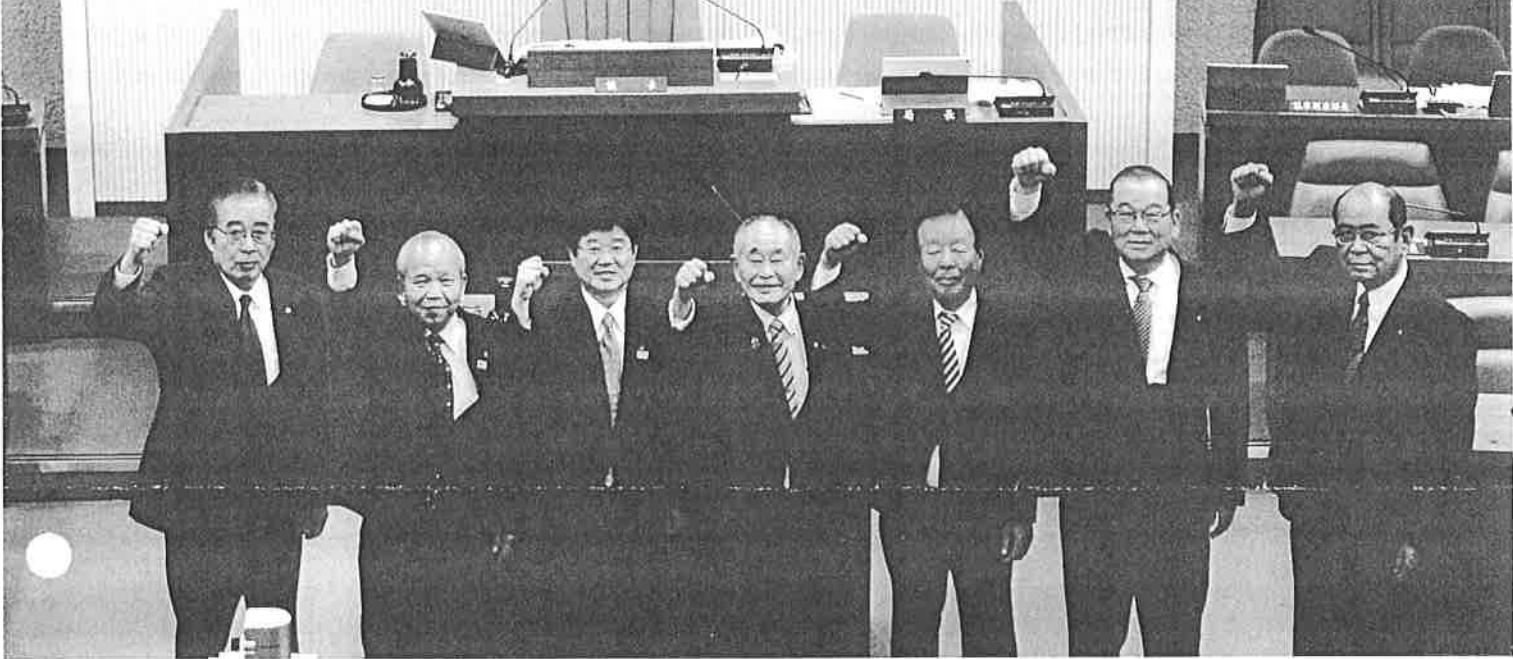
上記正に領収いたしました



デザイン工房 SHIKI  
薩摩川内市 祁答院町 下手2813-1  
細山田敬子

# 自民むつみ会 会報

発行：平成31年3月



宮里兼実議員  
自民むつみ会  
副幹事長

福元光一議員  
議会運営委員長

徳永武次議員  
総務文教委員長

川知善照議員  
川内原子力発電所  
対策調査特別委員会  
副委員長

福田俊一郎議員  
薩摩川内市議会議長

瀬尾和敬議員  
自民むつみ会幹事長

川添公貴議員  
川内原子力発電所  
対策調査特別委員会  
委員長

## 常に市民目線で

平成28年11月、「薩摩自民の会」と「むつみ会」が政策合意し、「自民むつみ会」が誕生しました。

議員歴と役職経験(最終ページに掲載)は豊富であり、また、議会外でも市民の皆さんとの関りが深く、正に市民目線でものを考え、市民の皆さんのために行動する会派であります。

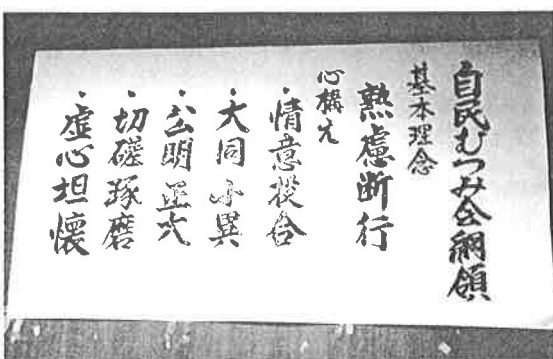
会派では綱領として「熟慮断行」を掲げています。これは、市政発展のために議論を重ね、方向性が決まったら突き進む、という意味があります。また、それを実現するために、次の5つの目標を掲げております。

- ① 情意投合
- ② 大同小異
- ③ 公明正大
- ④ 切磋琢磨
- ⑤ 虚心坦懐

これらを要約すると、市民の皆さんのために心を一つにし、大局的かつ公正な見地から議論し、常にお互いを高め合いながら、薩摩川内市の発展及び市民の皆さんの福祉向上のために最大限の力を尽くす、ということになります。

自民むつみ会は綱領実現のために邁進して参ります。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

## 『熟慮断行』 する



# 自民むつみ会が議会をリードする！

平成30年11月、議会構成替えにおいて、自民むつみ会のメンバーが議長を始めとする要職に就き、文字通り「薩摩川内市議会をリードする」会派となりました。



## 福田俊一郎議員、議長に就任

福田議長は、自民むつみ会の中では最若手ではありますが、議員歴・識見共に優秀であり、他の議員からも多くの信望を得たものです。多くの課題が山積する薩摩川内市にあって、福田議長の手腕に大きな期待が寄せられています。自民むつみ会は、他の会派の議員にも働きかけて全面的に福田議長を支えて参ります。

## 福元光一議員、議会運営委員長に就任

議会運営の要である議会運営委員長に、福元光一議員が就任しました。議会運営委員長は、正副議長の次に位置付けられる重要な役職です。福元議員はこれまでも議会の様々な要職をこなしてきましたが、今回は、正副議長の片腕として議会全体の取りまとめをするという大きな仕事を任されました。



## 徳永武次議員、総務文教委員長に就任



薩摩川内市の財政や教育問題など、幅広い分野で市制をチェックする総務文教委員長に、徳永武次議員が就任しました。3つの常任委員会の中でも、総務文教委員会は要となる委員会ですが、徳永委員長は持ち前の行動力を発揮し、難題解決に奔走しています。

## 川添公貴議員、川内原子力発電所対策調査特別委員長に就任 川畑善照議員、副委員長に就任



原発の立地する薩摩川内市議会には、安全性を常にチェックする特別委員会が設置されています。その川内原子力発電所対策調査特別委員長に川添公貴議員が就任しました。川添議員は、原発の安全性について常に目を光らす議員であり、長年特別委員を務めてきましたが、今回委員長に就任しました。東日本大震災による福島原発のような事故が起きないように、また事故を風化させないためにも、川添議員の委員長就任には大きな期待が寄せられています。

また、川畑副委員長は、長年の議員経験を活かし、川添委員長の補佐役を務めます。



# 政策立案のために奮闘

自民むつみ会では、政策立案のために政務調査を行ったり、会派での情報交換会等を通じて日々精進しています。昨年度から今年度までの政務調査のあらまは以下の通りです。

H29. 5 東京秋葉原コンベンション施設を視察  
農林水産省：鳥獣被害対策、TPPの状況調査  
国土交通省：インフラの老朽化対策  
国土強靱化について研修

H29. 11 秋田県男鹿市：少子化対策(ねうぼら)  
秋田県能代市：人口減少対策、  
消防団員確保対策研修、大型図書館視察

H30. 2 福岡市：コンベンション運営視察  
学校2学期制について研修

H30. 3 山口県：チョウザメ養殖、ソーラー水素iパワー  
ステーション  
太陽電池モジュールライン視察

H31. 1 岡山県玉野市：「たまの版生涯活躍推進事業」  
の視察  
岡山県新見市：iPad学習視察

H31. 3 日立造船所(株)有明工場：使用済み核燃料の乾式貯蔵・輸送に係るキャスクの視察  
福岡県豊前蓄電池発電所で、太陽光を活用した大容量蓄電システム実証施設について視察



本市で取り組もうとしている事業を先取りして視察したり、今後本市で採用すべき事業などを視察し、その結果を、本市に生かせないか本会議や委員会等で提言しています。

## 自民むつみ会で検討している政策・課題

- ・ 子育て環境整備
- ・ 企業誘致および地元中小企業への支援
- ・ 若者の就業支援
- ・ 高齢者福祉の充実
- ・ 財政健全化への更なる施策提言
- ・ 原発の安全確認及び次世代エネルギー政策の推進
- ・ シティセールスの推進
- ・ 農林水産業の振興(六次産業の推進)
- ・ 議員定数の検討



# 自民むつみ会のプロフィール

【年齢順】

\*住所電話番号は議会HPより抜粋。関連団体は一部掲載。



【川畑 善照(かわばた・よしてる)75歳】【政治信条】未来へ夢をひらく「改革・活力・安心」  
【住所・電話】薩摩川内市向田本町9-10 ☎0996-23-5251 (携帯)090-1160-9885  
【議員歴】平成5年～平成16年 旧川内市議会議員 企画経済委員長 川内監査委員  
平成16年～現在 薩摩川内市副議長、議長、地方創生特別委員長  
【関連団体】向田十文字通り自治会長、川薩地区食品衛生協会理事・指導員 その他



【宮里 兼実(みやざと・かねみ)71歳】【政治信条】即断即決 即行動  
【住所・電話】薩摩川内市陽成町8568-1 ☎0996-30-0124 (携帯)090-8836-5723  
【議員歴】平成13年～平成16年 旧川内市議会議員  
平成16年～現在 交通体系整備対策特別委員長、建設水道委員長  
【関連団体】平成校区体育協会会長、陽成地区コミ顧問 その他



【瀬尾 和敬(せお・かずたか)69歳】【政治信条】着眼大局、着手小局  
【住所・電話】薩摩川内市祁答院町下手2886-1 ☎0996-55-0485 (携帯)090-7155-1769  
【議員歴】平成3年～16年 旧祁答院町議会議員 旧祁答院町議会議長、  
平成16年～現在 総務文教委員長、薩摩川内市議長、現自民むつみ会幹事長  
【関連団体】薩摩川内市文化協会副会長、薩摩川内市合同短歌会事務局長 その他



【徳永 武次(とくなが・たけじ)69歳】【政治信条】未来につなぐ市政改革  
【住所・電話】薩摩川内市永利町1926-2 ☎0996-22-3334  
【議員歴】平成20年～現在 薩摩川内市議会議員、前自民むつみ会幹事長  
現総務文教委員長  
【関連団体】永利保育園理事長、永利愛郷連合会会長、永利地区コミ顧問、その他



【福元 光一(ふくもと・こういち)68歳】【政治信条】育ててもらったふるさとへ  
【住所・電話】薩摩川内市五代町7215-2 ☎0996-22-7061 (携帯)090-7460-4116  
【議員歴】平成16年2月～ 旧川内市議会議員  
平成16年～現在 市民福祉委員長、総務文教委員長、現議会運営委員長  
【関連団体】地区土地改良総代、亀山地区コミ顧問、自治会相談役、亀山子供見守り隊



【川添 公貴(かわそえ・こうき)63歳】【政治信条】やってみなければ始まらない  
【住所・電話】薩摩川内市東郷町斧淵9407-4 ☎0996-42-1763  
【議員歴】平成13年～平成16年 旧東郷町議会議員  
平成16年～現在 企画経済委員長、現川内原子力発電所対策調査特別委員長  
【関連団体】北薩地区子供会育成連絡協議会長、交通安全東郷支部長、斧淵地区コミ顧問等



【福田 俊一郎(ふくだ・しゅんいちろう)58歳】【政治信条】市民の声を心で聞く「終歳馳駆」  
【住所・電話】薩摩川内市宮崎町2061-7 ☎0996-23-1818  
【議員歴】平成9年～平成16年 旧川内市議会議員 川内川抜本改修対策特別委員長  
平成16年～現在 市民福祉委員長、建設水道委員長、現薩摩川内市議会議長  
【関連団体】薩摩川内市身体障がい者協会顧問、薩摩川内市防衛協会会長

